

THP養成コースを終えて ～学びと感想～

リハビリテーション療法学専攻
理学療法学分野


学籍番号：381003035

大矢敏久

THPコース受講の動機

- ・将来自分の住んでいる地域で高齢者を取り巻く医療・保健分野について、理学療法士として何らかの関わりを持つたい。

最も関心を抱いていた事

- 
- ・高齢化の進行で医療費、介護費の増大
→介護予防のために医療だけでなく保健、行政分野の協働が必要

その地域で医療・保健・行政分野のマネジメントする仕事がしたい。

多様な職種の方の講義が聞け、また他の医療職の受講生と交流できる場であるTHPコースは魅力に感じた。

印象に残った講義と学んだ点 (1)

- ▶ 保健師による地域包括支援センターの役割についての講義
- ▶ 施設の主なスタッフの職種は保健師・介護士・ケアマネージャーである
- ▶ 私の感想は、
「介護予防の視点に、運動機能の視点は不可欠であり、理学療法士の関わりは非常に重要ではないか」
回答「理学療法士が実際、働いている施設もあるが、広く普及とまでは、至っていない」

理学療法士協会からも地域包括支援センターに理学療法士を専従させることを義務付けるよう提案していると聞いたが、なぜ普及しないかという疑問を持った。



印象に残った講義と学んだ点 (2)

- ▶ 障害者の旅行支援についての講義
- ▶ 障害者で旅行に行きたいが一人では行けない人に対して団体の旅行に行く支援をする内容
- ▶ 事前の下準備(バリアフリー、トイレの場所、)

- ▶ その団体のコマーシャルビデオを見て、旅行に参加した高齢者の表情やコメントがとてもいきいきしていて感動した。
(「旅行が生きがいだからありがたい」「みんなでいけることがよい」)

- ▶ 高齢者QOL維持・向上にとって旅行支援は効果的であると思った。



多職種模擬カンファレンス

- ▶ 課題：自宅でほとんど寝たきりの方への介入の方針
(本人のニーズと家族のニーズがうまくとらえきれない中で)
- ▶ ブレインストーミングとKJ法を用い討論を整理した。

結論：まず、本人と家族の本当の気持ち理解できるような面接が重要である。

感想

- ・自分は、本人の立場をまず第一に考え場合によっては、家族には、対象者本人に対するニグレクトや虐待の一部ということを行った方がいいと思った。(意見としては言わず...)
- ・看護専攻の現職者の方は、家族の考えを聞くべきだという意見で、円満に解決するための方法を討論していて勉強になった。

自分の意見に自信が持てずなかなか発言できず残念だった。

THPの学びをどのように将来生かすか

- ▶ まず、地域の病院で理学療法士として働く。
(特に回復期病棟を退院後に訪問リハビリテーションを利用する方への理学療法を行いたい)
- ▶ 医療職だけでなくケアマネージャーやソーシャルワーカー、他の老人福祉施設の職員ともコミュニケーションを積極的にとりその職からの意見を聞く
- ▶ 病院とその他の施設の連携がさらに円滑になるような方策を考える。
- ▶ 医療の範囲の中だけでなく地域の中で理学療法士の専門性が生かせる場面を提案する

例：地域包括支援センターで身体機能に関する健康診断(介護予防)
市町村の要支援、要介護度決定へのADL自立度評価法の提案



THPへの要望

- ▶ リハビリテーション関係の方の講義がもう少しあるとよかった。(学内の先生はありましたが、学外の先生の講義ももう少しあると好ましい)
 - ▶ リハビリ職が中心となった場面で看護職の方と討論できるとよかった。
 - ▶ 多職種カンファレンスの回数を増やしてほしい。
課題が数個あったが、すべてのテーマを行いたかった。
課題について事前に関連する講義をして知識を蓄えてからカンファレンスをしたかった。
THP受講前と受講後にカンファを行い、THPを受けて自身の考えにどのような変化があるのか実感したい。
-

